

横浜市学校規模適正化等検討委員会

「齋藤分小学校・二谷小学校」
建替えに伴う学校規模適正化等検討部会

「齋藤分小学校・二谷小学校」
建替えに伴う学校規模適正化等に関する意見書

1 学校統合について

(1) 検討部会としての決定事項

齋藤分小学校と二谷小学校は学校統合を行わず、齋藤分小学校については当面の間存続とし、二谷小学校については、単独での建替えに着手すべきと考えます。

なお、齋藤分小学校については、今後の児童数の推移を注視しつつ、教育委員会からの提案を受けて、学校施設の目標耐用年数である70年を目途に、齋藤分小学校単体での学校の在り方を検討するよう提案します。

(2) 検討経緯

教育委員会から、「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」と「横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針」に基づき、二谷小学校の建替えに伴って、隣接する齋藤分小学校との統合が提案されました。その後、検討を重ねてきましたが、第5回検討部会において、隣接する青木小学校において教室不足が発生する恐れがあり、その対策として両校に係る通学区域の見直しの可能性があることを教育委員会から示されました。今後、青木小学校の教室不足対策が具体的に検討された結果として、通学区域の見直しを行い、青木小学校の隣接校である齋藤分小学校、二谷小学校の2校において児童の受け入れが必要となる可能性が考えられることから、(1)のとおり検討部会としての考え方をとりまとめました。

2 教育委員会への要望

(1) 検討部会の進め方について

教育委員会による学校統合の必要性についての説明が部会委員に十分に伝わらず、部会の検討に時間を費やしました。環境が変わる児童、保護者、地域住民の理解が大切になりますので、分かりやすく丁寧な説明が必要だったと考えます。

横浜市全体を見渡せば児童数は減少していますが、青木小学校の通学区域のように、今後児童数が大きく増える見込みの地域もあります。学校規模適正化を進めるにあたっては、検討の初期段階から、対象校のみならず周辺校のまちづくりの動向や教室不足等の情報把握に努め、最適な学校規模適正化を提案いただくようお願いします。

(2) 今後の齋藤分小学校について

齋藤分小学校の敷地条件を考慮すると、狭隘道路で囲まれていることや第一種低層住居専用地域であることから、現在の建替え技術では工期の短縮等が難しいなどの課題があることは理解しました。

今後、齋藤分小学校が目標耐用年数である70年を迎えた段階で適正規模校だった場合には、建替え等を視野に入れた検討を行っていただき、一方、小規模校だった場合は、教育委員会からの提案に基づき、通学区域の再編成や老朽化対策の手法等を検討する場を設けてい

ただよう、お願いします。また、児童等の安全を考慮した、学校運営に必要な保全等を引き続き実施していただくようお願いします。

(3) 今後の二谷小学校について

学校施設の目標耐用年数である70年が目前に迫る中、二谷小学校に通う児童の保護者や、今後二谷小学校に入学する未就学児の保護者からも、建替えが遅れていることに対して不安の声が寄せられています。本検討部会での議論が長期に渡ったことで二谷小学校の建替えが当初、説明を受けたスケジュールから大幅に遅れたことについて、教育委員会は真摯に向き合っていたと考えています。

建替えを進めるにあたっては、当初の提案に基づきグラウンドを既存面積より広く取り、建替え後、グラウンドに仮設校舎等が設置されず、児童が安全・安心で快適な学校生活を送れるような学校施設を目指してください。またその際には、学校関係者や地域の声にも耳を傾けていただきながら、一緒に新しい学校づくりを進めていくようお願いします。

なお、建替え工事に着手した際には、例えばグラウンドが使用できないことの代替措置として、隣接する県立高校のグラウンドを借用できるよう、教育委員会に支援いただくようお願いします。